

## 「地域理解プログラム講演会」アンケート分析

### 1:地域理解プログラム講演会について

#### 【 目的 】

地域への気づきを促し、具体的な事例をとおして被災地の課題や復興に向けた展望についての知見を育成する。

#### 【 講演会の内容 】

##### 講演①人吉市役所・復興建設部

- ・現在の人吉市の復興状況について
- ・人吉市役所が取り組んでいる地域復興に向けて活動
- ・高校生に知っておいて欲しいこと、考えて欲しいこと。
- ・復興を通して再確認した人吉球磨の魅力と課題

##### 講演②くま川鉄道株式会社

- ・くま川鉄道の地域における役割、意義
- ・豪雨災害からの復興状況
- ・高校生に知っておいて欲しいこと、考えて欲しいこと。
- ・復興を通して再確認した人吉球磨の魅力と課題

##### 講演③人吉球磨観光地域づくり協議会

- ・協議会の概要
- ・高校生に知っておいて欲しいこと、考えて欲しいこと。
- ・活動を通して再確認した人吉球磨の魅力と課題

### 2:アンケートについて

#### 【 実施方法 】

- ・「地域理解プログラム講演会」の事前・事後においてアンケートを実施した。
- ・Google forms でアンケートを実施

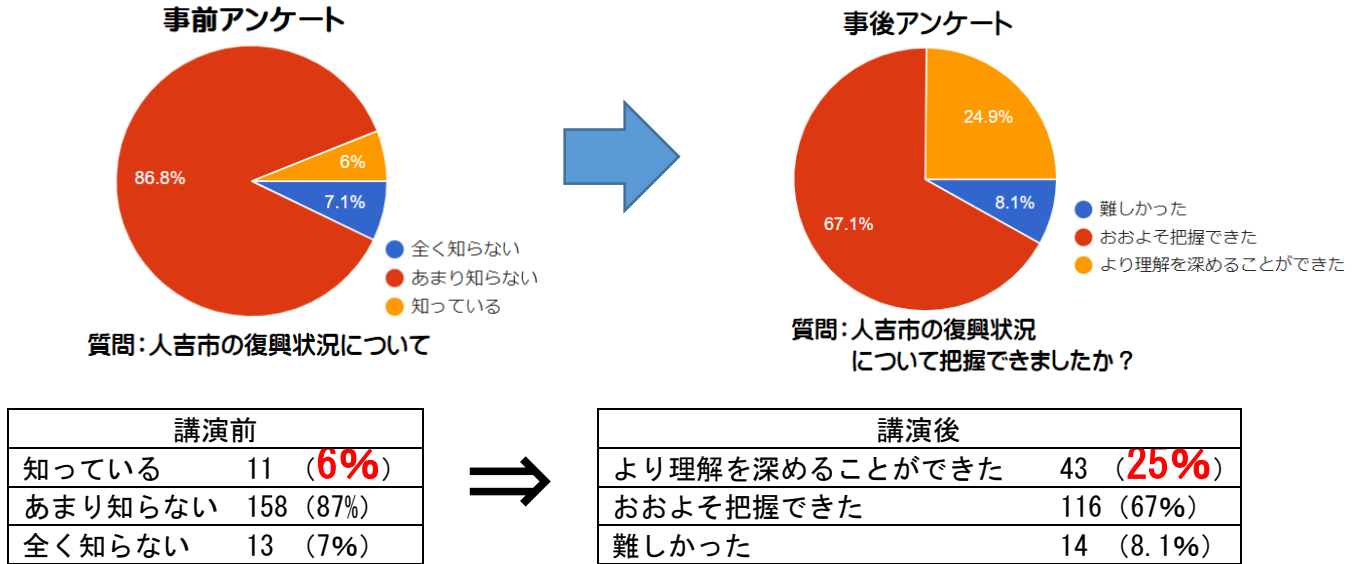
#### 【 分析方法 】

- ・Google forms の集計結果から分析する。
- ・AI テキストマイニングを活用して分析する。

### 3: アンケート結果・分析・成果

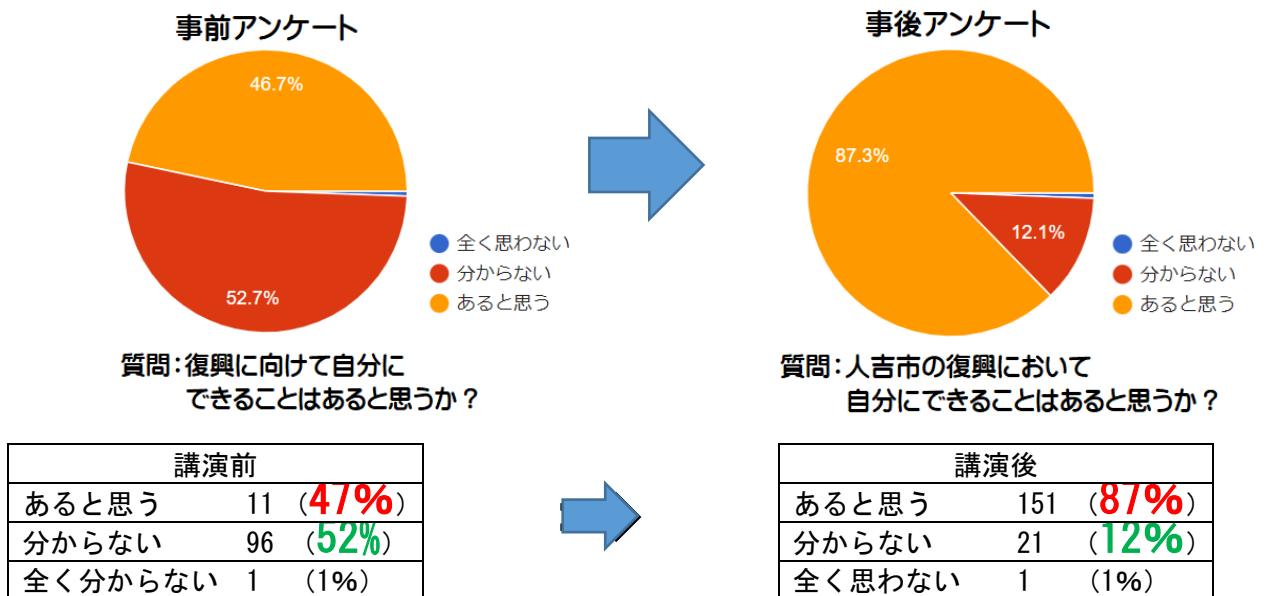
< 講演会① 人吉市役所・復興建設部 >

#### 結果・分析①



**成果①** 生徒の人吉市における復興状況に対する認知度および理解度の向上

#### 結果・分析②

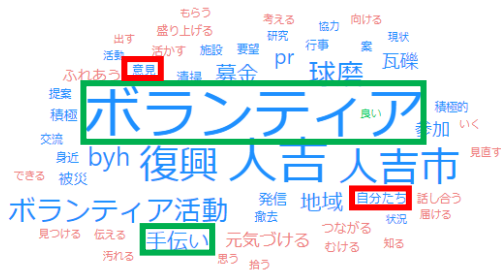


**成果②** 生徒自身が復興に向けて為すべき事をイメージすることができた

結果・分析③   = 減少したワード

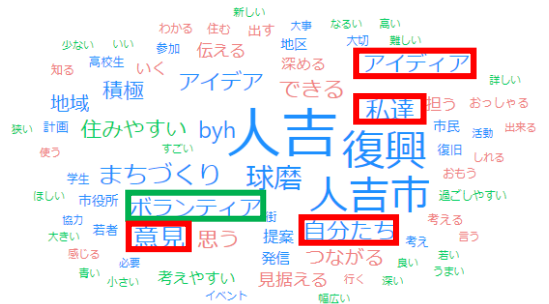
  = 増加したワード

事前アンケート



質問:復興に向けて具体的に自分たちにできることは?

事後アンケート



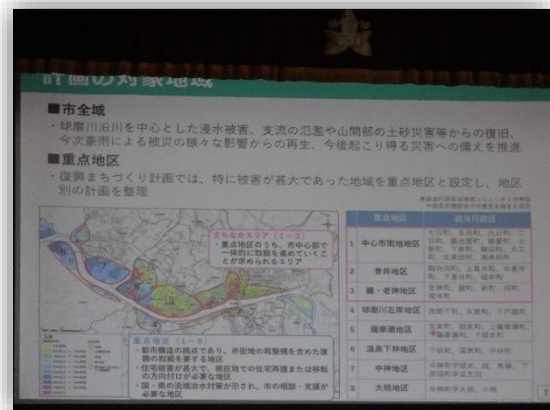
質問:復興に向けて具体的に自分たちにできることは?

頻度の割合 ( 事前 : 事後 )	
手伝い	減少 (100 : 0)
ボランティア	減少 (76 : 24)
アイデア	増加 (0 : 100)
自分たち	増加 (4 : 96)
私たち	増加 (14 : 86)
意見	増加 (17 : 83)

成果③ 人吉市の復興に対する当事者意識の向上

～ 講演後の生徒の感想 ～

- ・自分たちの意見を届けることも復興につながると思った。
- ・講演会であったように高校生である僕達だからこそ出せるアイデアや行動などがある。
- ・復興、復旧のために地域住民、事業者、行政が主体的に取り組むことが大切だと学んだ。
- ・意見を積極的に出すことも人吉市の復興においてとても大切なことだと分かった。
- ・復興状況を知ることができ、自分にできることを考えやすくなった。

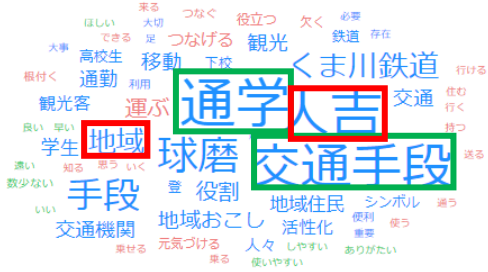


< 講演会② くま川鉄道株式会社 >

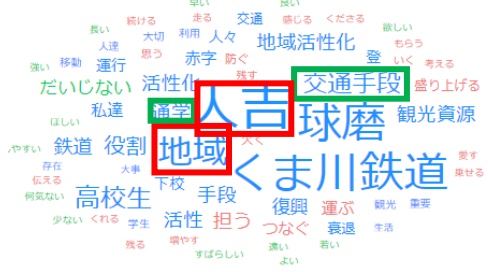
結果・分析①   = 減少したワード

  = 増加したワード

事前アンケート



事後アンケート



質問:くま川鉄道の役割や意義とは?

質問:くま川鉄道の役割や意義とは?

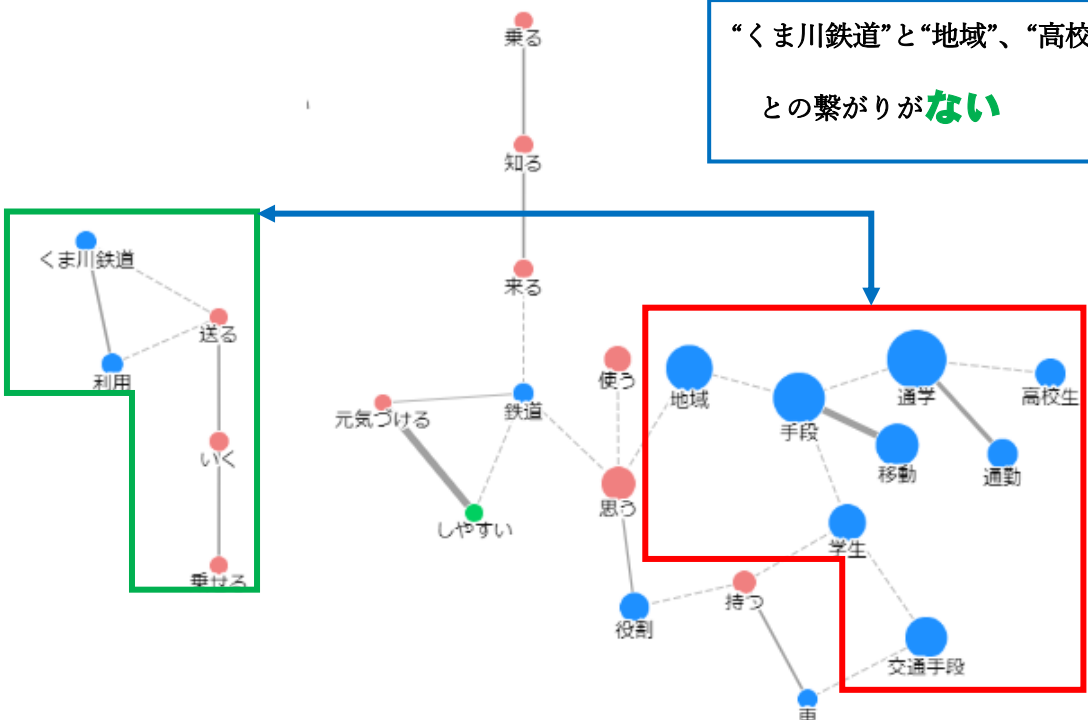
	出現頻度高いワード	
	事前アンケート	事後アンケート
1位	通学	地域
2位	手段	高校生
3位	地域	人吉
4位	移動	球磨
5位	交通手段	くま川鉄道
6位	学生	役割
7位	人吉	手段
8位	観光	交通手段

くま川鉄道 = 交通手段のみ ×

くま川鉄道 = 交通手段  
復興を担う  
地域活性化の可能性  
観光資源

結果・分析②

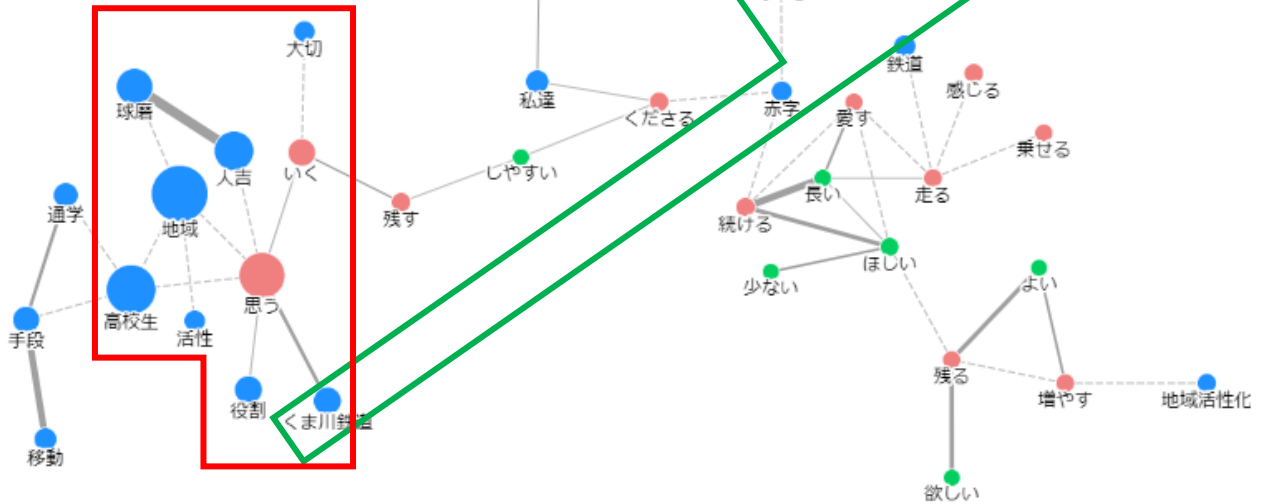
事前アンケート



“くま川鉄道”と“地域”、“高校生”との繋がりが**ない**

# 事後アンケート

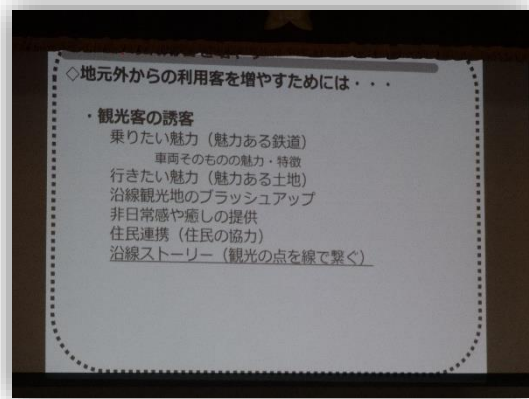
“くま川鉄道”と“地域”、“高校生”  
との繋がりが**ある**



**成果④** 地域資源を自分と繋げその活用方法を考える思考力が向上した

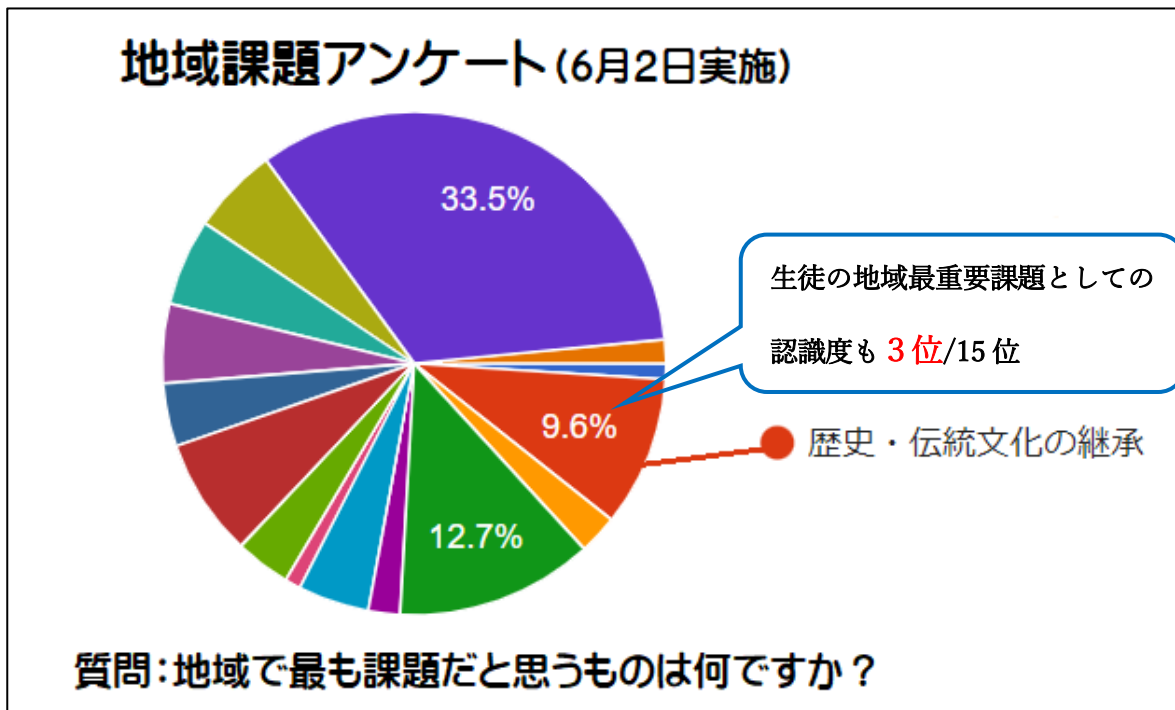
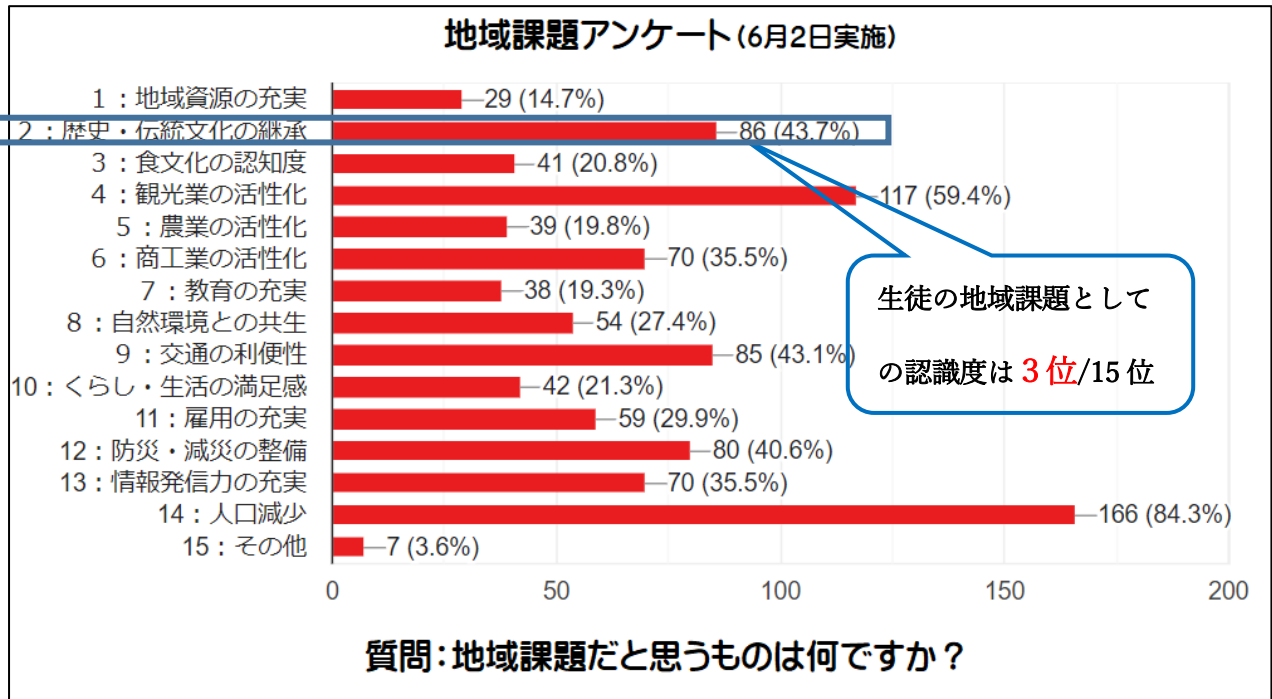
## ～ 講演後の生徒の感想 ～

- ・くま川鉄道は地域の衰退を防ぐためにも、今後もみんなで協力して継続するべき。
- ・この地域の大事な交通手段かつ人吉球磨の歴史や文化を広める中心となっていると思う。
- ・くま川鉄道は僕達高校生のために残されたものなのでこれからはわたしたちもくま川鉄道の今後について考えなければならないと思いました。
- ・学生の交通手段だけでなく、観光資源として来るための目的づくりとしての役割。
- ・地域を結びつける糸のひとつであり、地域のために残ってほしい文化だと思いました。



< 講演会③ 人吉球磨観光地域づくり協議会 >

結果・分析①







あなたの達成率は

100%



です。

講座回	講座名・講師名	感想
第1回	流域治水の概論 講師：島谷幸宏	雨量や流量のグラフからも森林の雨量の調節機能はとても大切なものなのだと思えて感ずることができました。私はもともと流域治水ときいたら、ダムだったり堤防だったりというような人工物を作ることによってのイメージしかありませんでしたが、この授業を聞いて雨量からどれだけ流れて川に入ってくる量を制限できるかが重要になってくるのだなと知ることができました。また、川そのものに対しての対策だけでなく、雨庭などそれぞれの建物、個人で対策できることが洪水の被害を狭めることができるのを知って、治水は国や県、市などの公共団体だけでなく私たちそれぞれで対策していくべきものなのだと思いました。
第2回	グリーンインフラと世界の河川と流域治水 講師：島谷幸宏	そもそも、グリーンインフラとグレイインフラという言葉があってそれぞれに利点、難点があるということを知りました。グリーンインフラもグレイインフラも上手に活用しながらより過ごしやすい地域になるように、各国の取り組みを真似していくのもいいなと感じました。
第3回	命を守ったタイムライン(防災行動計画)、その減災効果を知る 講師：松尾一郎	今まではタイムラインをつくるようにいわれても、大切なだろうことはわかってはいたけれどなかなか本気で考えて、それを実行にうつすことがあったと想像することがなかったのもっと意識を高く持とうと思いました。また、今回の台風でも事前に気をつけてくださいという情報が流れたりして、この地域でもタイムラインが作られているのだと感じました。
第4回	大雨を知り、大雨災害を防ぐ 講師：中村明	この講義を受けて、改めて私たちの意識の低さを考えさせられました。気象現象の被害で、ある程度被害がでるのは逃れられない今、自分達で自分の命を守るためには個人個人の行動、また近所の人との協力がとても必要なのだと思います。そのために日頃から「もしも」への準備をしっかりと、コミュニケーションを大切にしていきたいです。
第5回	災害と復興まちづくり 講師：柴田祐	復興まちづくりというものはどの地域でも同じものをするのではなく、いかにその地域に合わせた復興ができるかというものが重要なことだと思いました。復興は損害だけでなく損失からも立ち直らないといけなくて、人々のつながりやコミュニティを取り戻すことが必要だということはわかりましたが、10年、20年と経てば個人的にも社会的にも地域のあり方というのは変わってくると思うので、完全な復興というのは難しいのかなと感じました。
第6回	伝統治水方式と流域治水 講師：島谷幸宏	とても昔から地裁技術というのは様々あって、その技術には昔の人の知恵がたくさん含まれていて、現代において治水をするにあたって学ばなければならないことがたくさんあるのだと思いました。今のように速さを求めるだけでなく自然と共に生きられるように効率だけでなく様々な視点から治水を行っていくことが必要だと感じました。
第7回	3億年の歴史から読み解く球磨川流域の成り立ち 講師：大木公彦	今まで人吉に住んでいたのに、川がなぜわざわざ硬いところを流れているのかとか、人吉盆地の土地の面白さについて何も知らなかったのがこのバーチャルキャンパスを通して色々知ることができてとても面白かったです。
第8回	令和2年7月熊本豪雨で被災した登録有形文化財人吉旅館と芳野旅館の再生 講師：磯野節子	人吉の登録有形文化財を再生するために多くの人の協力と苦労があったのだと思いました。今まで人吉に住んでいたなら田舎だなーとかしか思わなかったけれど、様々な文化財があってそれは沢山の人が協力するに値するほどの価値を持っていてということに少し誇りを感じました。文化財の再生には様々な点で難しさがあるということも話の中であって、どこかで妥協しなければならぬところがあって、譲れないところもあってというバランスをとっていくことが必要なのだなと感じました。
第9回	Eco-DRRと将来の流域治水のあり方 講師：島谷幸宏	自然の地形によって、災害が防がれているということは、言い換えれば自然破壊が災害を大きくする原因になるとも言えるなと思いました。災害対策のために自然を排除して人工物をつくるという手段を取る前に、その地形がどんな役割を果たしているのか深く考え、壊すのではなく自然を活かせないかということをしっかり考える必要があるなとあらためて思いました。
第10回	球磨川を代表する魚類、アユと河川の自然環境の健全性ととの関係 講師：皆川朋子	今まで、川の生態系は全ての生き物がいいバランスを保ちながら成り立っているということは知っていたけれど、鮎が川の生態系においてたくさんの働きをしていて、鮎があることによって成り立っている生態系が人吉にあることがすごいなと思いました。人工的に人が手を入れてしまうことで、鮎の産卵場を壊してしまうなど、川の生態系を崩しかねてしまうことがないように考えていかないといけないなと思いました。
第11回	球磨川流域の生き物のくらしとその保全 講師：一柳英隆	カワネズミやタガメを中心に話が進められていきましたが、人間の活動(護岸工事など)を通して生息場所が失われていたり個体数が減ってしまったりしていることは前回のバーチャルキャンパスと重なることがありますが、人間が生態系に介入することは最低限にしないといけないなとおもいました。ですが、人間も護岸工事などという工事をするのは理由があるので、頭を使える人間が上手に自然と干渉していかないといけないのかなと思いました。
第12回	球磨川流域の森林の歴史と現在 講師：蔵治光一郎	一言に球磨川流域の森林といってもそれぞれで森林の種類やそこに対する市町村の取り組みも違うということを知りました。伐採や間伐をするにあたって、災害のことも考えてすることは大事だけれど、切らなければいいということでもないのできちんと考えていくことが必要だと思いました。
第13回	ニホンカモシカの保護とニホンジカ、森、そして人間 講師：遠藤晃	ニホンカモシカが国の特別天然記念物であるということを知りました。シカは人間にとって害になるというイメージを持っていましたが、具体的にどういう被害が出るのかを知った上で、しかも生きるためにしていることなので、シカと人間だけでなく、ニホンカモシカなどの他の動物ともどうにか共存していけるように取り組まなければならないなと思いました。
第14回	球磨川下流域の神社やお堂、伝承にみる水の暮らし 講師：森山学	神社の建てられる向きにもしっかりと理由があって、球磨川流域圏の神社は藤本五所神社以外は球磨川のほうをむいて建てられているということを知りました。やはり、水というのは人間の生活になくてはならないものだし、災害とも付き合っていかなければならないので川と神社やお堂の関係が強いのかなと思いました。
第15回	中世の球磨川流域と相良氏 講師：小川弘和	人吉球磨地域は中世のころから北西部、北東部、南九州のそれぞれの地域が重なる部分にあつて、それから領主が1人とは定まらないことが多くあったのだなということを知りました。また、平家の滅亡など教科書でしか聞いたことがなかった話も、今の私たちの暮らしにつながる人吉球磨の歴史に関わっているのだなと感じました。



講座回	講座名・講師名	感想
第16回	酸素マイクロバルブを用いた農作物栽培技術が農業に新たな技術革新をもたらす 講師：堤裕昭	今まで、植物は気孔からとりこむことで酸素を吸収しているということしか知らなかったけれど、根っこからも酸素を供給することができるを知って驚きました。そして、そのような発見があったから品種改良以外の食料の供給を増加させる方法を見つけることができている、研究、探究の大切さも感じました。
第17回	球磨川流域圏の自然・文化資本を活かす 講師：宮野英樹	地元のわたしたちが知らないところで、人吉球磨に観光客を集めるためにたくさんの方々が球磨焼酎を中心としてプロジェクトを進めてらっしゃることが、とても感謝すべきことだなと思ったし、将来わたしが人吉球磨からでたととしても、いつか帰ってきて、人吉球磨に貢献できるだけの技術と知識を持って帰ってきたいなと思いました。



あなたの達成率は

100%

です。



講座回	講座名・講師名	感想
第1回	流域治水の概論 講師: 島谷幸宏	自然との共生がやはり大切だと感じました。私たちは人間の技術で何事も解決していこうとするような傾向があると思います。そうではなくて、もちろん人間の技術も取り入れつつ、自然を残すことで、環境を守りながら災害を防ぐことがバランスのとれたいい防災だと考えます。しかし、今回の講義を受けるまでは氾濫地についてなど全く知りませんでした。まずはもっと私たちが治水に興味をもって、学んでいくことが大切だと思います。
第2回	グリーンインフラと世界の河川と流域治水 講師: 島谷幸宏	グリーンインフラはとても環境に優しく、かつ私たちのためにもなるものだと感じました。しかし、これを実現するためには多くの人の理解と協力が必要です。理解と協力を得るためにはもっとグリーンインフラの考え方を浸透させていかないといけないと考えました。まずは私たちがしっかりと学び、他の人達にも発信していきたいです。
第3回	命を守ったタイムライン(防災行動計画)、その減災効果を知る 講師: 松尾一郎	準備、訓練、実践を繰り返し、その度にタイムラインを改善していくことが大切だということは、前授業でタイムラインを作成した際には言われなかったように思うので、今回しっかりと学べて良かったです。私たちがこのタイムラインを地域の方々に広めていくべきだと思うほど、災害に対して心理的にも有効な取り組みだと思いました。タイムラインの活用について更に考えていきたいと思っています。
第4回	大雨を知り、大雨災害を防ぐ 講師: 中村明	事前に予測して動くためにも、気象観測が大きな役割を果たしてくれることがよくわかりました。いままで避難訓練など人間の動きを中心に考えていたので、地球スケールで、気象をみるという新しい観点を得られたと思います。確かに前々からわかっていたら被害をおさえられる、そんなことにも気づけていなかったのもう少し視野を広げるべきだと思えることができました。ただ、コロナ禍で飛行機の本数が減ってしまい、いま気象観測が難しくなっているという話もきいたので、諸問題とのつながりもしっかり意識できるようにして、気象観測に限らずいろんな防災の観点について考えていきたいです。
第5回	災害と復興まちづくり 講師: 柴田祐	一口に「復興」といっても、社会資本、住民の生活空間や人々の間のコミュニティなど様々なものがあるので、復興のために多くの人の協力が必要であると改めて感じました。また、川や文化遺産を利用したまちづくりについては、詳しく見ていなかったのもう少し自分の地域のことを知っておくべきだと思いました。被災地から住民が消えていくことを防ぐためにも、人吉をより魅力的なまちにしていきたいです。
第6回	伝統治水方式と流域治水 講師: 島谷幸宏	治水の歴史を紐解くと、今にもつながる部分や今では失われてしまった技術が掘り起こされるということがわかりました。過去のことを知ることで今のものごとをもっとよくできると思うので、昔の出来事にも目を向けることができるようにしたいです。
第7回	3億年の歴史から読み解く球磨川流域の成り立ち 講師: 大木公彦	球磨川がいかに珍しい川なのか、よくわかりました。地学の視点から見てみると本当に球磨川の成り立ちや性質についてよくわかりました。いつも当然のように理科系統の強化の授業を受けていましたが、その知識を活かしてきけていないのだと痛感させられました。現地で球磨川を見ている私たちがだからこそ、見えていないのかもしれない。もっと自分がみているものについていろんな視点をもちたいです。
第8回	令和2年7月熊本豪雨で被災した登録有形文化財人吉旅館と芳野旅館の再生 講師: 磯野節子	本当は昔のまま残しておきたい気持ちもあったはずなのに新しいものとしてつくらないといけなくなってしまったことが少し残念に思うし、きつと旅館の方々も辛かったことと思います。それでも、まだ価値あるものとして、また人吉の中心として復活させようとするその姿勢があったから人吉旅館も芳野旅館も再び観光の要として舞い戻ることができたのでしょう。人吉の復興はまだまだ終わってません。先人たちが受け継いできた歴史や文化を守ることもしっかりと見据えて、現代と融合した復興を目指したいです。
第9回	Eco-DRRと将来の流域治水のあり方 講師: 島谷幸宏	堤防などを築くのではなく、自然と共生し、自然を利用する防災について考えることができました。よくよく考えると、私達人間と自然は共生できる関係にあります。私達が自然を保護し、その仕組みを活用することは、確かに災害を防ぐことにつながるはず。これから人吉の防災を考えていく中で、球磨川がもたらしている力、ひいては、人吉の豊かな自然そのものの力について理解し、うまく利用することが必要であると思いました。
第10回	球磨川を代表する魚類、アユと河川の自然環境の健全性との関係 講師: 皆川朋子	ずっと人吉に住んでおり、身近な存在として捉えていたアユについてほとんど何も知らない自分に驚きました。特に、黄斑が鮮やかであればあるほど、アユ社会での地位が高くなることなどは初耳でした。川底をきれいにまでしてくれるアユとは、これからともに人吉を盛り上げる仲間(?)として良い付き合いをしていきたいものです。
第11回	球磨川流域の生き物のくらしとその保全 講師: 一柳英隆	いつもなんとなく眺めている景色のなかでも、ありとあらゆる生き物たちがお互い影響しあって、環境をつくってきていると思うと、少し感動すらします。ところが、人の生活を便利に、安全にしていくなかでそんな生き物たちを追い詰めてしまっているというのは、どうにかなくてはならないことです。自然豊かな人吉を守るために、人のことばかりを考えるのではなく、共に人吉に生き、人吉を作っているとも言える生き物たちとの共存の道を追求していきたいです。
第12回	球磨川流域の森林の歴史と現在 講師: 藏治光一郎	昔も、今も変わらず求められている木材。森はそれだけでなく私達の生活を大きく支えてくれているということがわかりました。歴史的に見ても、森の保護に関しては、意識した動きもあれば、問題点もあり、これからどのように歴史を築いていくのがとても重要かと思えます。森とうまく付き合い、利用して、人吉の財産として後世まで残していきたいです。林業がさらに発達し、人吉の収入へと繋がるようなことも夢ではないかもしれません。
第13回	二ホンカモシカの保護と二ホンジカ、森、そして人間 講師: 遠藤晃	これまで、シカについて害獣としての認識はありましたが、こんなにも多くの影響を自然に、ひいては私達の生活に及ぼしているとは思いませんでした。確かに森に行ってみると、下の方に植物があまり生えていません。言われてみるまで気づかないようなことまで、これからの変化の前兆であるということには全くと言っていいほど気づいていませんでした。しかし、害獣とはいっても、同じ人吉の地に住む生き物です。他の生き物や、自然環境との折り合いをつけながら、シカとも共に過ごせるようになればいいなと思います。



講座回	講座名・講師名	感想
第14回	球磨川下流域の神社やお堂、伝承にみる水の暮らし 講師:森山学	人吉のシンボルとも言える球磨川。しかし、その歴史や、水運などについては驚くほど何も知りませんでした。筏を組んで、木材や薪などを運んだこと。人々の船旅の安全確保のための様々な工夫。そのひとつひとつが人吉の発展に繋がりを、今にも受け継がれていると思うと、不思議なものに感じてしまいます。昔の人吉の人々が守り抜き、そこで生活し、私達に受け継がせたこの球磨川をこれからも人吉の宝として守り、受け継いでいきたいです。
第15回	中世の球磨川流域と相良氏 講師:小川弘和	現在の人吉の基盤となっているとも言える人吉の歴史ですが、なかなか知った気になっていて全く知らないということがよくわかりました。永く続いた大名家故に、相良家の歴史も膨大なものとなっています。人吉にも歴史資料館はありますが、正直言ってピンときませんでした。今回の講座を受けることによって、少しでも自分の住む地域のことを理解できたのかなと思います。これからも人吉の歴史を語り継ぎ、さらに発掘していきたいです。
第16回	酸素マイクロバルブを用いた農作物栽培技術が農業に新たな技術革新をもたらす 講師:堤裕昭	たしかに農業とは私達の生活になくてはならない産業です。人吉にも多くの田んぼや畑があり、米や野菜を生産している方も多いと思います。ところが、実際に野菜をスーパーなどに売るとすると、労力に対して見合わない額で買われるという現状を聞いたことがあります。少しでも効率的に、より多くの、良い品質の農作物を生産することができるような技術が発達すれば、農家の方々もより安心して農作物を生産することができるのでしょうか。人吉は農業にも多く支えられています。そういった技術がこれから人吉には必要なのかもしれません。
第17回	球磨川流域圏の自然・文化資本を活かす 講師:宮野英樹	今まで日本内にばかり目を向けていたので、フランスなど海外に売り出すというのは、効果的であると改めて気づかされました。今の時代、どの地域も、どの団体もグローバルに自分たちの売りを売りつけようとしています。球磨焼酎のように人吉球磨には確かに様々な良いものがありますが、これだけで満足していたのでは他に越されるというのがオチだと思います。今すでにある価値を掘り起こすことはもちろん、新たな人吉球磨の価値を私達が中心となって創り出していくことも必要になってくるのかなと考えました。